診療科

内科系

総合内科
膠原病・リウマチ科
腎臓内科
糖尿病・代謝・内分泌内科
循環器内科
呼吸器内科
消化器内科
神経内科・脳卒中科
血液内科
感染症内科
精神科
緩和ケア内科
骨粗鬆症外来
化学療法科
フレイル外来
ポリファーマシー・在宅支援外来

外科系

外科
血管外科
心臓外科
脳神経外科・脳血管内治療科
呼吸器外科
整形外科
脊椎外科
皮膚科
泌尿器科
眼科
耳鼻咽喉科
歯科口腔外科

血管病センター

認知症センター

がん相談支援センター

在宅医療・福祉相談室

中央診療部門

麻酔科
リハビリテーション科
放射線治療科
病理診断科
臨床検査科
薬剤科
栄養科
臨床工学科
放射線診断科
内視鏡科
健康長寿イノベーションセンター研究開発ユニット
臨床試験部門
高齢者バイオリソースセンター

アクセス

- 東武東上線「大山」駅下車、南口・北口より徒歩4分
- 都営地下鉄三田線「板橋区役所前」駅下車、A3出口から徒歩11分

地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター

〒173-0015 東京都板橋区栄町35番2号
TEL：03-3964-1141 FAX：03-3964-1392 URL：https://www.tmghig.jp/

地域連携NEWS VOL.2
（2020年3月発行）

地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター

地域連携 NEWS

VOL.2
2020.03

【医師紹介】

青山 里恵
循環器内科　医長

安樂 真樹
呼吸器外科　部長

【コメディカル紹介】

片原 憂斗
薬剤科

【連携医療機関紹介】

鶴田 悠木
鶴田板橋クリニック　院長

医療連携室からのお知らせ ｜ 各種実績

PROFILE

日本医科大学医学部卒業
東京都老人医療センター　臨床研修医
東京都健康長寿医療センター　循環器内科
日本医科大学附属病院　循環器内科
日本医科大学大学院医学研究科循環器内科学分野卒業
東京都健康長寿医療センター　循環器内科

循環器内科　医長

青山 里恵

Rie Aoyama

医師紹介　DOCTOR INTERVIEW 01

Q. 医師を志そうと思ったきっかけはなんですか?

父は電気工事業、母はレコード小売業、祖母は江戸川で金魚の養殖業を営むという医療とは全く無縁の家庭で育ちました。幼少時は金魚池の周りで金魚の餌の選別をしたり、父の店でハンダ付けを手伝ったり、母の店で店番を手伝って過ごしていた記憶があります。振り返ると金魚の餌の選別やハンダ付けは今の心臓カテーテルやペースメーカー手術の手技に通じていたのかと思うことがあります。両親共働きであったため、ほとんどを一緒に過ごしていた祖母からのプレゼントがきっかけで医療に興味をもちました。プレゼントはブラックジャック全巻セットでした。高校時代にその祖母が長期療養をしたことをきっかけに医者を志したんです。心筋梗塞や心不全の患者さんが全身管理やカテーテル治療、外科治療で劇的に改善する姿を見て、心臓疾患に関わりたくて循環器内科医を目指しました。

Q. 自身の専門分野の中で特に「この分野・領域では他の医師には負けないぞ!」と自負される点はどこですか?

循環器専門医・心臓カテーテルインターベンション専門医そして老年病専門医として冠動脈治療、ペースメーカ治療、TAVI や PTSMA といった Structural Heart Disease(心臓構造疾患)治療、心不全治療に携わっており、高齢患者さんへの侵襲的治療と老年医学に基づいた全人的治療の融合を目指しています。

老人医療センター時代から当センターで老年医学、循環器内科学を学んだ経験を活かし、高齢者に多い複数の疾患の合併、医療介護環境の調整等、全人的医療が提供できるように日々奮闘しています。大学では肥大型閉塞性心筋症に対しての経皮的中隔心筋焼灼術(PTSMA)を学んでいたので、高齢者に対してのカテーテル治療の一手法として当センターでも施行しています。

あとは、マイナーな存在である女性循環器インターベンション医師の支援団体である Japanese Women's Interventional Conference (J-WINC) の世話人をさせていただいていて、院内で講演会やワークショップ開催等の活動を通して、女性医師支援・技術知識の向上に努めています。

Q. これまでの医師生活の中で心に残るエピソードはありますか?

旅行先の種子島で母がクモ膜下出血で倒れ、娘の私が挿管しドクターヘリで鹿児島市内に搬送したことがあります。その後手術を無事受けて、新幹線で9時間かけ当センターへ転院搬送をし、リハビリを受け無事社会復帰をすることができました。そして母のみならず父も心筋梗塞によるうっ血性心不全にて入院となり娘の私が心臓カテーテルを行い、無事退院することができたというエピソードがあります。両親ともに娘の私が初期対応・処置をするとは医者になるまで考えてもいませんでしたが、当センターにうまくバトンタッチすることで社会復帰をすることができました。転院や介護の問題等を、医療者としての立場だけでなく、患者家族の立場からも考えさせられたのはよい経験であったと思っています。

Q. 初めて来院した患者さんに対して心がけていることがあれば教えてください。

ご高齢な患者さんが多いので、わかりやすく丁寧な説明に努めています。

また当センターの特徴として女性医師が多く勤務しています。特に非常勤医も含めますと循環器内科だけでも7名の女性医師がおり、診療において細やかな配慮ができればと思っています。

Q. 今後力を入れていきたいと考えている治療について理由と共に教えてください。

かかりつけ医と当センターの連携はもちろんのこと、医療介護やご家族との多職種連携についてもいろいろな垣根を取り払って取り組んでいきたいと思います。

PROFILE

鹿児島大学病院　研修医
栃木県立がんセンター　呼吸器外科レジデント
トロント大学　大学院
トロント大学　胸部外科・肺移植臨床フェロー
慶應義塾大学　医学部　外科（呼吸器）助教
慶應義塾大学　医学部　外科（呼吸器）専任講師
東京大学医学部附属病院　呼吸器外科 助教
東京大学医学部附属病院　呼吸器外科 特任講師
東京大学医学部附属病院　呼吸器外科　特任准教授（併任）
東京大学 大学院医学系研究科 医療安全管理学講座　講座長
JR 東京総合病院 胸部外科 部長
東京都健康長寿医療センター　呼吸器外科　部長

呼吸器外科　部長

安樂 真樹

Masaki Anraku

医師紹介　DOCTOR INTERVIEW 02

Q. 呼吸器外科部長に就任されてから数か月が経ちましたが、当センターに対する印象は着任前と後で変わったことはありましたか?

すごく申し上げにくいのですが…。着任する前は当センターのことをあまりよく知らなかったんです。入職が決まったことを機にインターネットなどで調べたことで、明治の大実業家、渋沢栄一が当センターゆかりの人物だったということを知りました。

入職してから「先代の先生からずっとお世話になっているんだよ」とか、「この病院には家族全員がお世話になっているよ」といった患者さんからのお話を多く伺います。これを聞いて、当センターは昔からこの地域に根差し、患者さん方からも愛される病院なんだなと感じているところです。

ところでここでは全く関係のない話ですが、2階の売店にあるパン屋さんがとっても美味しいんですよね(笑)。新作も多いし、焼き立てを提供してくれるから入職してからの楽しみの一つになっています。

Q. 先生が思う当センターの強みとはなんですか?

当センターは、近代福祉事業の原点とも言える養育院附属病院からの歴史を持ち、現在も高齢者医療を中心に医療や福祉の在り方について学問としても医療としても探求してきた施設です。学問・研究（研究所）と、医療（センター）の双方を有していることは大きな強みだと思います。それにハード面もとても充実していて、普段仕事をしていて不便を感じたことはないですね。若くして高齢者医療を志しているスタッフも多く、また色々なことに挑戦してみたいという意欲に溢れた人が多いこともこの病院の魅力だと思います。

Q. 先生個人としての強みも教えてください。

私の強み…ですか。そんな大それたものは何もないと思います(笑)。

そもそも私が呼吸器外科医となったのも、栃木県立がんセンターでレジデントになるご縁をいただいた指導医が、呼吸器外科を専門とする先生だったんです。以後も様々なご縁をいただいて、現在もこの専門医として診療にあたっているところです。患者さんの状態やリスク、家族のサポート状況や周囲の環境など、総合的に考えて治療を進めることが、いちばん大切だと思っています。

この医者だったら任せられる！任せたい！そう思ってもらえるよう日々心がけて患者さんに接しています。当たり前のことなのですが、患者さんが無事に回復して元の生活に戻り、暮らしていけることを願って日々の治療にあたっています。

医師が患者さんに発する言葉は、命に関わることだからこそとても責任を伴うものですが、前向きに希望をもって患者さんやご家族が治療に取り組めるよう心がけています。

Q. それぞれの強みを活かして、地域の医療機関とどのような医療連携を目指していきたいですか?

日頃から地域医療を支えてくださっている先生方は、単に医者と患者という関係性だけでなく、地域のつながり、家族代々の信頼関係を築かれているのだと思います。大切な患者さんを安心して私共にご紹介いただけるよう、地域に根差した病院で在り続けなければならないと思うんです。そのためにも当センターへご紹介いただいた患者さんを縦割り的に受け入れるのではなく、外科・内科に関係なくタイムリーに診療していける体制を作っていきたいですね。

十分な環境と人員を活かしてそれぞれの専門性を如何なく発揮することを目指していくことで、地域医療により貢献できるのではないかなと思ってます。

私も外科医として、また健康長寿医療センターで働くチームの一員としてお役に立てればと思っています。

コメディカル紹介

薬剤科

片原　憂斗

Yuto Katahara

強い探究心を持ち
収集した情報を周囲へ発信し
積極的に医療へ貢献したい

普段の業務内容

私の病院薬剤師としての業務は、大きく分けて２つあります。

１つ目は、薬剤科内で行う業務です。具体的には、入院・外来調剤、注射調剤、抗がん剤や点滴の無菌調製、外来患者さんへの服薬指導や薬剤情報提供、医薬品管理などがあります。

２つ目は、私が担当している整形外科病棟、地域包括ケア病棟で行う業務です。具体的には、入院患者さんに対する服薬指導、病棟スタッフとの情報交換、他職種と協働した在宅医療の推進などがあります。

自分が思う自分の強み

私の強みは探究心が人一倍強いことだと思います。わからないことに直面したときは必ず自分で調べ、それでもわからないときは先輩や同僚に聞き、解決するよう努めています。また、同時に収集した情報を周囲へ積極的に発信することを心がけています。そうすることで、周囲とのコミュニケーションが円滑になり、結果として患者さん本位の医療に貢献できると考えております。

病院薬剤師２年目として日々慣れない業務に追われていますが、医師や看護師、栄養士、理学療法士など病棟スタッフからのお力添えを頂きながら、時に手を取り合い、いち薬剤師の自覚をもって取り組んでいます。

周りからみた個人の印象（岩切先生より）

彼は責任感が強く、薬についての質問をすると、迅速に詳細を調べ、期待をはるかに越える答えを持ってきてくれます。正義感も強く、患者さんにとって有益になることであれば、主治医にも臆せずに提案しています。PCのデータ処理から宴会のエンターテイナーまで何でもこなすスーパーマンなので、将来が楽しみです。

ポリファーマシーへの取り組み

私はポリファーマシーのメンバーでもあり、整形・脊椎外科病棟、地域包括ケア病棟へ入院している患者さんを対象に、医師２名（総合内科・循環器内科）、薬剤師４名で週１回ポリファーマシーカンファレンスを行っており、患者さんのアドヒアランスや内服管理状況を踏まえた医薬品適正使用の推進に取り組んでいます。

外出の頻度が多く昼の薬を飲み忘れることが多い患者さんの処方を朝・夕食後へ簡略化できないか、疼痛が軽減してきている患者さんに対して痛み止めをいつまで継続するか、入院中に血圧が下がりすぎてしまった患者さんの降圧剤の変更についてなど、高齢者総合機能評価をもとに患者さんやご家族のご意向に沿った最適な処方について検討しています。また入院中に処方を変更・中止した場合は、必要に応じて変更の理由と変更後の経過について記し、かかりつけ医療機関へ退院報告書を作成し送付しています。

地域医療機関へのメッセージ

今後はより一層、高齢者医療を適切に行うため、ポリファーマシーチームとしての活動へ積極的に取り組んでまいります。その中で薬剤師として、かかりつけ医療機関の先生方や地域薬局の薬剤師とのポリファーマシー対策の取り組みを通して、さまざまな情報共有ができるように努力してまいります。

今後とも、ご協力・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

当センターでは、地域の医療機関の先生方と相互に連携し、一貫性のある良質な医療を提供することを目的としております。ここでは日頃から当センターにご協力いただいている先生方をご紹介していきます。

連携医療機関紹介

鶴田板橋クリニック

院長　鶴田　悠木

Yuki Tsuruta

地域医療を担う一員となり、身近な専門医として腎臓や生命を守る手助けをする

医師を目指したきっかけやこれまでの経歴

私が医師を目指したきっかけはやはり父の影響だと思います。板橋の地で長年腎臓の地域医療を担ってきた父は忙しく、なかなか家で一緒に過ごす時間がありませんでしたが、子供ながらに父の仕事を誇りに思っておりました。

いまでこそ腎臓疾患は国民病とも言われていますが、私が卒業したころには都内でも腎臓内科がある大学病院は少なく、腎臓病総合医療センターのある東京女子医科大学に入局し、いくつかの公立病院で腎臓内科医としての研鑽を積みました。その後東京都健康長寿医療センターで地域、高齢者医療を学び、クリニックの勤務となりました。

診察の際に心掛けていること

体調が悪かったり、健康診断で異常を指摘されて受診される方はとても不安な気持ちだと思います。まずは我々医療従事者が、最大限のサポートをさせていただくことをお伝えできればと考え診療にあたっております。

一方で腎臓病や腎不全の原因となる高血圧や糖尿病は自覚症状が乏しく、サイレントキラーと呼ばれています。将来を見据えた治療は御本人の意識が最も大切ですので、御本人が治療の主役であることを御理解いただき、一緒に治療していければと考えています。

専門分野について

地域のクリニックとして、腎臓内科だけではなく内科全般の治療を行っています。高血圧や糖尿病は自覚症状が乏しくても、長い期間をかけて腎不全や様々な疾患を引き起こしますので、臓器保護を考えた診療が大切です。また腎機能が落ちている方は薬剤の使用などにも注意を要するため、御相談いただければと思っています。腎不全となった場合にはシャントの手術を含めて透析の診療も行っており、腎機能が正常な方から末期腎不全の方まで診療を行っています。

当センターに対する印象

私が勤めていた2013年に新病院に移転して、最新の設備を備えたとてもきれいな病院になりました。移転前の病院は歴史を感じる建物でしたが、昔ながらの優しさのある病院でした。移転して先進の設備を備えながらも、昔から高齢者の患者さんが多いということも影響しているかもしれませんが、古き良き病院が共存するような印象です。信頼できる先輩の武井先生、板橋先生をはじめ、腎臓内科の医師も多数おり、安心して患者さんをお願いできる連携病院と感じております。

地域連携への取り組み

病院で腎臓専門医として診療をしてきた私ですが、地域医療を担う一員となりどのようにお役に立てるかを考えたときに、身近な腎臓専門医でありたいと思いました。病院で勤務していた時は、かなり腎臓が悪くなってから受診する方が多くいらっしゃいました。大きな病院に受診するのは、ハードルが高いと感じることもあると思います。身近に受診できる専門医として、必要な時には適切に大きな病院へ連携し、皆様の腎臓や生命を守る手助けができればと考え診療を行っています。

鶴田板橋クリニック【内科 腎臓内科 泌尿器科 人工透析科 血管外科】

〒114-0023　東京都北区滝野川 7-5-7　アーバンフレックス SG 4・5F

TEL：03-3916-6511　FAX：03-3916-6515

診療時間　9：00～12：00、13：30～17：30

（休診日：土曜午後、日曜、祝日）

https://itabashi.keitenkai.net

医療連携室からのお知らせ

医療連携室は、地域の皆さま方に安心・満足して当センターをご利用いただけるよう、地域のかかりつけの先生方をはじめ、様々な医療機関や施設等と私たちを“つなぐ”窓口です。
医療を必要とされる方がスムーズかつ適切な医療サービスをお受けいただけるよう、われわれ医療連携室がその架け橋となって、円滑な前方連携を図ることを役割としております。

C@RNA Connect をご存知ですか？

今号は検査予約に便利なシステムツール「C@RNA Connect」についてご紹介させていただきます。

C@RNA Connect とは…

当センターでは高額医療機器の共同利用を行うことで地域の病院に貢献していきたいと考えております。C@RNA Connect とは、その高額医療機器を利用した検査予約をインターネットで 24 時間いつでも予約できるシステムのことです。本システムのセキュリティー体制については、富士フィルムメディカル（株）のデータセンターの管理の下、暗号化通信、ユーザーID、パスワード等により個人情報は保護されていますので安心してご利用いただけます。
※登録料や利用料は不要です。

予約できる検査

CT検査、MRI検査、
アイソトープ検査（SPECT）、
PET 検査、骨密度測定、超音波検査、
ホルター心電図、
24 時間自由行動下血圧測定、筋電図

どのような活用ができる？

医療連携室スタッフが思う C@RNA Connect のメリット

C@RNA Connect はインターネットで 24時間いつでも予約が取れることに加えて、
その他にもまだまだメリットがあるんです。みんなでそのメリットを挙げていきましょう！

まず、従来の電話予約と比べて時間や場所を選ばず予約ができるのはすごく良いですよね！
仮予約もできるので、診察中は仮予約で予約したい日時だけ押さえて、細かい入力は
あとでゆっくり…なんてことも可能です！

予約時に入力した情報を用いて診療情報提供書も作成できるんですよね！
なので一つのツールで予約から紹介状の作成までできちゃうんです。

あ！あと、初診患者さんであっても事前に基本情報が入力されるので、当センターに来院してからの初診手続きの時間が短縮されます。患者さんにとってもメリットがありますね！

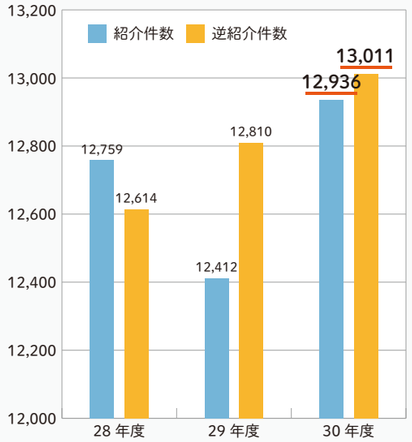
確かにどれもインターネット予約によるメリットが満載ですね！
一目で予約可能な日時を確認することができますし、そのほかに予約したい検査なんかもまとめて取れます。
それになんといっても、日頃からお忙しい先生方の時間削減に貢献する非常に有効なツールです。
まだお使いになられたことのない先生方にもぜひこの機会にご利用いただきたいですね！

各種実績

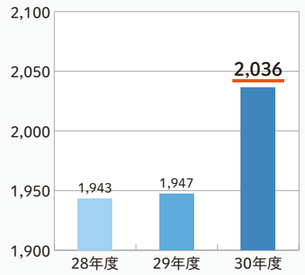
当センターの各種実績をご紹介させていただきます。
私たちは、皆さまに信頼・納得される良質な医療とサービスの提供を目指しております。
今号は、当センターと地域との連携実績、入院・外来患者の居住地を取りまとめました。
今後の紹介等に是非ご活用ください。

地域との連携実績

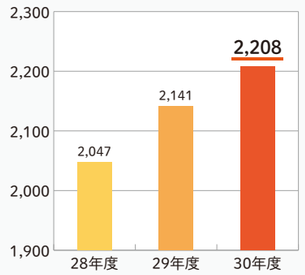
紹介・逆紹介件数



ご紹介元の医療機関数



逆紹介先の医療機関数



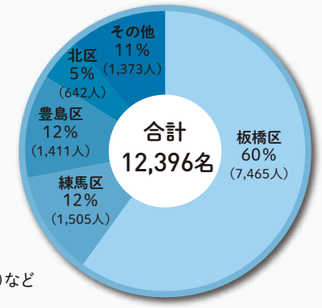
紹介元・逆紹介先は、
毎年、施設数が増加している
➡良好な連携を拡大している
と言えます。

入院・外来患者の居住地別集計

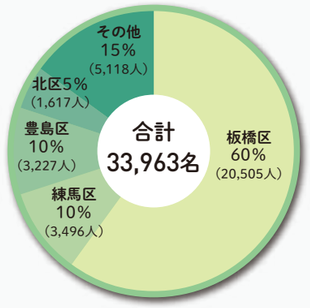
近隣の区にお住いの患者さんが8～9割を占めていますが、**その他の地域からも多くの患者さんが来院されています。**

【その他の地域】
他区部、市部・島しょ、他県（埼玉・千葉・神奈川 他）など

新入院患者数（2019年）



外来実患者数（2019年）



今号の表紙

表紙の写真は１階カフェ横から２階の渋沢サロンへと続く階段です。
写真には写っておりませんが、カフェと渋沢サロンは丸みを帯びたガラス張りの造りとなっており、当センターの外観の象徴でもあります。
２階の渋沢サロンは、渋沢栄一の歴史や文献などのご紹介のほか、ちょっとした休憩スペースも兼ねており、みなさまの憩いの場となっています。
当センターにお越しの際はぜひ一度お立ち寄りください。